

## レゴブロックを活用した研究授業について

学校名：玉城町立下外城田小学校

教科等	外国語活動	
実施学年	5年生	
単元名	Lesson 9 What would you like? 「ランチメニューを作ろう」(Hi, friends!1)	
単元の指導計画	第1時	レストランごっこをして、「What would you like?」と「I'd like～」の表現を学習する。
	第2時	レゴでお店やさんごっこの準備をする。
	第3時	買い物で使うやりとりを英語で覚える。
	第4時 (本時)	「What would you like?」と「I'd like～please.」を使って、レゴブロックで作ったお店で買い物体験を行う。
レゴブロックで作品を作成した時の授業について	<p>子どもたちは、レゴブロックを使った活動が大好きである。9月にはレゴブロックで自分の好きなものを作り、作品を見せ合いながら「What would you like?」「I like～」と英語で会話をする学習を行った。友だちが、知らない英単語を言っても、レゴブロックを見ると何が好きかが分かるので、自分なりに英単語と結び付けて理解している様子がみられた。</p> <p>また、レゴブロックで作成している時にも、知っている英語を話すようにし、「It's red!」「green house!」等、英語の学習につなげていくことができた。</p> <p>さらに、みかんやつりざおなどを英語でどう言うのかALTに自ら聞きにいき、レゴブロックを通して英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。</p> <p>本単元でも、子どもたちはレゴブロックの作成にとっても意欲的で、「次の休み時間、みんなでもっと作ろう!」とグループの友だちに声をかけあって、活動していた。子どもたちは①ペットショップ②雑貨屋③釣具屋④レストラン⑤スポーツ用品店⑥家具屋⑦乗り物屋のお店を開き、英語で買い物体験を行う。「What would you like?」と「I'd like～please.」と、既習の英語を使用して、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする子どもの姿を期待している。</p>	

## 【本時について】

本時の目標	What would you like? I'd like～.やこれまで使用した表現を使って、買い物の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
-------	-------------------------------------------------------------------------------

準備物	レゴブロック（前時まで準備）、ワークシート、フォニックス用 DVD
< 本時の流れ >	
学習活動	教師の支援・留意点
1 フォニックスの練習をする  2 本時のめあてを確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HRT が率先して大きな声を出し、外国語を使うモデルとなるようにする。</li> <li>• 大きな声で練習するように伝える。</li> <li>• ALT の発音にできるだけ近づけて発音するように伝える。</li> <li>• アルファベット読みと、音読みの二つがあることを伝え、音読みができると、知らない単語も英語で読むことができるようになることを意識させる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             &lt;めあて&gt; What do you like? I'd like ~ please. を使って、英語で買い物のやりとりをしよう。           </div>	
3 お店で使われる会話文の練習を行う。 （会話例） A: Hello. What would you like? B: I'd like pizza, please. A: Here you are. B: Thank you. A/B: Bye.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• HRT と ALT でお手本の会話を行い、活動で使うやりとりを確認させる。</li> <li>• テンポよく、リズムにのって行う。</li> <li>• ペアで A と B の会話を交互に練習する。</li> <li>• 黒板に会話を板書する。</li> <li>• 黒板を見ずに、できるだけ相手を見てコミュニケーションすることを伝える。</li> </ul>
4 グループに分かれて、買い物体験活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時までにお店で売るものをレゴで作っておく。それを使って買い物体験を行う。</li> <li>• 「売る」チームと「買う」チームに分かれて、積極的に英語でコミュニケーションをとることの大切さを伝える。</li> <li>• 決められた文を覚えて言うだけでなく、既習の英語で自分なりに表現する大切さを伝える。</li> </ul> <p>（使うことができる既習の英語）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• What is this?</li> <li>• It's a ○○.</li> <li>• I like ○○.</li> <li>• It's good. など</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 買い物体験では、支払い場面も想定されるが、本時では支払いは行わない。</li> <li>• 特に支援が必要な児童の活動を確認し、言葉かけや手本を示して支援する。</li> </ul>

5 学習の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ALTにはできるだけ多くの児童と会話をしてもらおう。</li> <li>• ジェスチャーや表情など、非言語の手段も活用させる。</li> <li>• グループで本時の感想を話し合う。</li> <li>• ワークシートを使って本時の活動をまとめる。</li> </ul>
<p>＜まとめ＞今日の買い物体験で学んだことを、自分の言葉でまとめよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>What would you like?</b> を使って、お客さんに「何が欲しいですか？」と何回も聞くことができた。</li> <li>• <b>I'd like~, please.</b> を使って、自分の欲しいものを買うことができ、英語が通じて嬉しかった。</li> <li>• 店員になった時は、笑顔でお客さんを迎えることも大切だと思った。</li> <li>• 今までに覚えた「<b>I'm hungry.</b>」や「<b>See you.</b>」など、たくさんの英語を使うことができた。</li> </ul>	

### ＜成果と課題＞

今年度から「フォニックス」の学習を取り入れ、アルファベットには「音読み」と「アルファベット読み」があることを学習してきた。7月と2月に2回フォニックスに係る調査を行ったが、2月の調査では正答率が上がり、英単語を「読んでみよう」とする子どもたちの姿が増えた。フォニックス調査を終えての振り返りには

- 7月は3問しかあってなかったけど、2月は8問もあっていてフォニックスの成果が出たと思った。
- 前は「a」と「u」の発音の仕方が分からなかったけど、分かるようになった。
- 「l」と「r」の違いが難しかった。サラ先生に教えてもらって「l」は舌を出して、「r」は口の中で舌をまいて言うことが分かった。
- 英語は、音と音との組み合わせだということが分かった。(egg=e+g+g) そうやってすれば、覚えられそうだった。
- 7月は「cat」と「cut」を聞き間違えていたけど、2月は分かったのがよかった。ちょっとした舌の動きで発音が違うことが分かった。

などが挙げられ、子どもたちもフォニックスの学習の成果を感じる事ができた。

一文字だけの「音読み」は定着しつつあるが、3音やそれ以上になる単語の読み方、またいくつかの例外のある読み方の習得には至っていないのが課題である。指導方法も手探りであるため、来年度に向けてさらに研修を重ね、「音読み」をつなげていって英単語を読むことができるように指導していきたいと思っている。

レゴブロックを取り入れた学習では「英語で伝えたい！」という意欲が増し、ALTに「～は英語で何と言うのですか？」と尋ね、次々に英文や英単語を習得する子どもたちの姿が見られた。「自分の好きなもの」「お店で自分が売りたいもの」など、「自分の思い」が表れる活動にすることを意識した。ブロック操作が初めての子どもも、そのまま使える動物のフィギュアを使って自分の思いを表現することができた。何より「楽しく」活動できることがレゴブロックの素晴らしさであり、子どもが生き生きと活動していた。

本時に至るまでに、レゴブロックの作成に時間がかかったことや、夢中になりすぎるとコミュニケーションをせずに一生懸命ブロックを触っている子どもたちの姿が見られたことなどが課題としてあげられる。また、各教科のどんな場面でどんな活用をするのが効果的であるか、系統だてて指導していきたいと思っている。